

補助事業公募審査会一次審査（書類審査）結果について

1 市が認定する補助金（新規等）の審議

民間建築物アスベスト含有調査事業について、市が認定する補助金とすることについて審議を行い、承認された。

また、「審査会が公開審査する補助金」の申請件数 77 件 51,444 千円のうち、「からあげフェスティバル事業」については申請の取り下げがあったため、76 件 50,944 千円の審査を行うことになった。

2 審査会が公開審査する補助金の審査

審査対象件数	76 件	50,944 千円…①
うち一次審査で採択決定の事業（28.00 点以上）	60 件	41,224 千円…②
うち二次審査の対象となる事業（①－②）	16 件	9,720 千円…③
補助金予算の財源枠（全体）		47,920 千円…④
補助金予算の財源枠（残額）（④－②）		6,696 千円…⑤

一次審査において、補助金の財源枠 47,920 千円（④）に入らなかった事業数が、8 件であった。このため一次審査において得点の低い 16 件（8 件×2）、9,720 千円（③）が二次審査の対象となり、28.00 点以上の 60 件、41,224 千円（②）が一次審査で採択決定となる。

なお、補助金予算の財源枠の残額は 6,696 千円（⑤）となる。

※ 補助金の財源枠（全体）

47,695 千円（昨年度補助金財源枠）×100.48%（平成 25 年度の市税収入が 0.48%の増加見込みであるため）≒47,920 千円

3 一次審査（書類審査）に係る審査会附帯意見

- 事業内容が重複する事業が見受けられた。事業をまとめるなど、申請を受け付ける段階で各担当課においてもっと精査が必要である。
- 各担当課は、申請のあった事業について、どういう意図でどういった事業をしたいのかということ、もう少し理解しておいてほしい。そうすれば審査会がスムーズに進むと思う。

- 各担当課が団体より申請書を受け取り、そのまま提出しているような感じがする。団体から申請を受け付ける各担当課の役割について、どうあるべきかということ を 2 年後の補助金制度の見直しに向け考えてほしい。
- 補助事業を実施した結果はどうであったか、効果はどうであったかということが申請書に全く反映されていない。補助事業を実施した成果を書くべきである。
- 3 年以上補助を受けている団体は事業がマンネリ化している傾向がある。新しい企画立案を行うなど、行政の方から指導が必要である。また、5 年 1 0 年と同じような事業を繰り返している団体が多い気がする。
- 本来市の仕事として対応すべきだが、とりあえず補助金で対応するケースがあると思う。その場合、団体からの申請を毎年ズルズル受けるのではなく、ある程度の期限を通告し、市が本来すべき事業については、中長期的な見通しを示す必要があるのではいか。
- 1 事業を採択したことにより、それに追随する事業申請が多く出てくるケースが予測される場合、その審査をどうするのか意思統一をしておく方がよい。先駆者メリットを認め採択するのか、追随が予測されるので採択を控えるのかということである。
- 申請書あるいは意見書の記載項目に、これまでの補助金を受けた年数や金額を入れていただければ、審査の参考になると思う。
- 団体の自立も必要であるが、自立が困難な団体もある。補助金公募制度は 1 / 2 補助であり、残りの 1 / 2 は自分たちで集めないといけない。その苦労は大変なものである。

以 上

写真

